

座長	●	森谷靖彦	● 副座長 村瀬弘幸(情報委員会WG主査)
委員	●	志手一哉(情報委員会委員長)	● 専務理事:前田伸子
	●	加納恒也	● 日本建築士会連合会:横松邦明
	●	田中洋介	● 日本建築士事務所協会連合会:加藤政弘
	●	菊野 格	● 日本建築家協会:筒井信也
	●	須貝成芳	● 日本ファシリティマネジメント協会:飯島勇
	●	大越 潤	● BIMライブラリ技術研究組合:寺本英治
	●	中嶋 潤	● 日本不動産鑑定士協会連合会:立石正則
	●	比嘉俊介	● 建設物価調査会:高橋俊一
	●	高橋肇宏	● building SMART Japan:三戸景次
	●	谷内秀敬	● 日本建築構造技術者協会:馬場勇輝
			● 日本設備設計事務所協会連合会:竹馬章二
	オブザーバー	●	齊藤 武
●		柳田 将貴	● 日本ファシリティマネジメント協会:猪里孝司
●		建築・住宅国際機構:西野 加奈子	● 建設物価調査会:丸木健
●		建築コスト管理研究所:岩松 準	
国土交通省	●	国土交通省 住宅局 建築指導課:松本朋之	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:竹村光司
	●	国土交通住宅局建築指導課:平牧奈穂	● 国土交通省大臣官房官庁営繕部:城澤道正
事務局	●	事務局長 塚原 均	(以上29名)

議事次第公益社団法人 日本建築積算協会

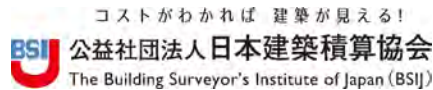
公益社団法人 日本建築積算協会・情報委員会

「BIM を活用した積算・コストマネジメントの環境整備」協議会
(建築BIM推進会議 第4部会)



BSIJマスコットキャラ宝積(ほづみ)さん

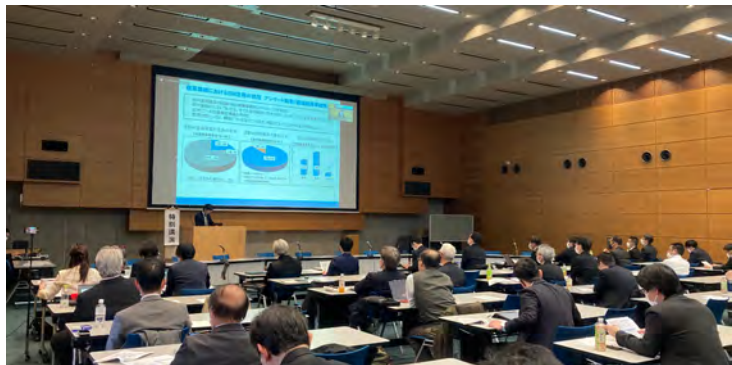
2023年度活動報告(中間報告)



1

BSIJ協議会(部会4)について

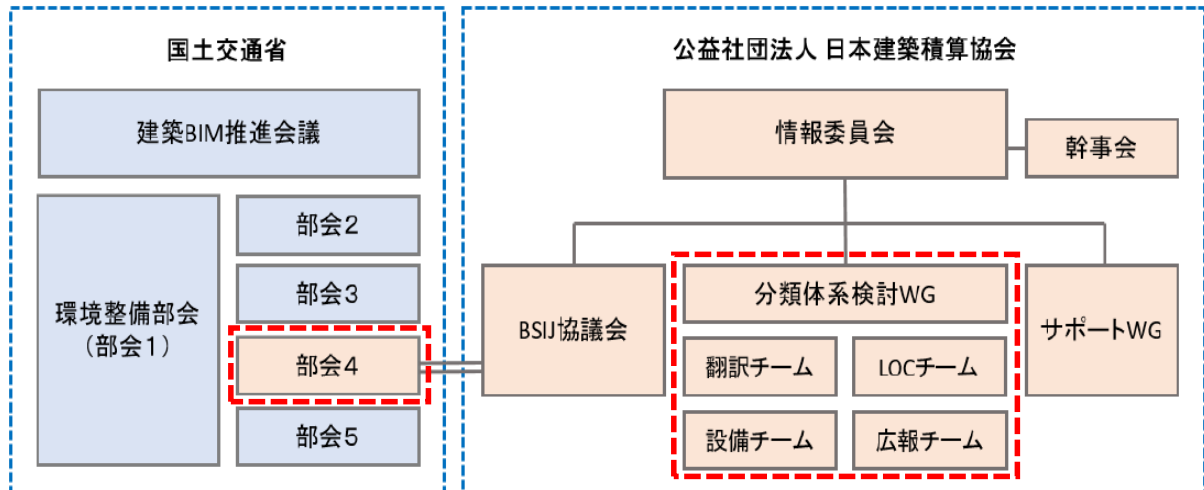
- 部会4の位置付け、検討体制
 - BIMによるコストマネジメント手法の確立と、積算の標準化を進めることを目的に、(公社)日本建築積算協会内に設置された『BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備』協議会が、建築BIM推進会議の「BIMによる積算の標準化検討部会(部会4)」として位置付けられる
- 建築BIM推進会議での役割 → BIMによる積算の標準化
 - BIMによる形状及び属性情報から積算数量を算定可能とするため、建築物の部位・部分・設備等を一元的に管理・識別可能なコード化を整備するとともに、BIMで定義される建築要素単位での積算手法の標準化を図る
- 検討事項
 - 分類体系の整備
 - 分類体系を適用した積算手法の標準化
 - BIMを用いたコストマネジメント手法の確立と普及活動



2

BSIJ協議会（部会4）の活動体制

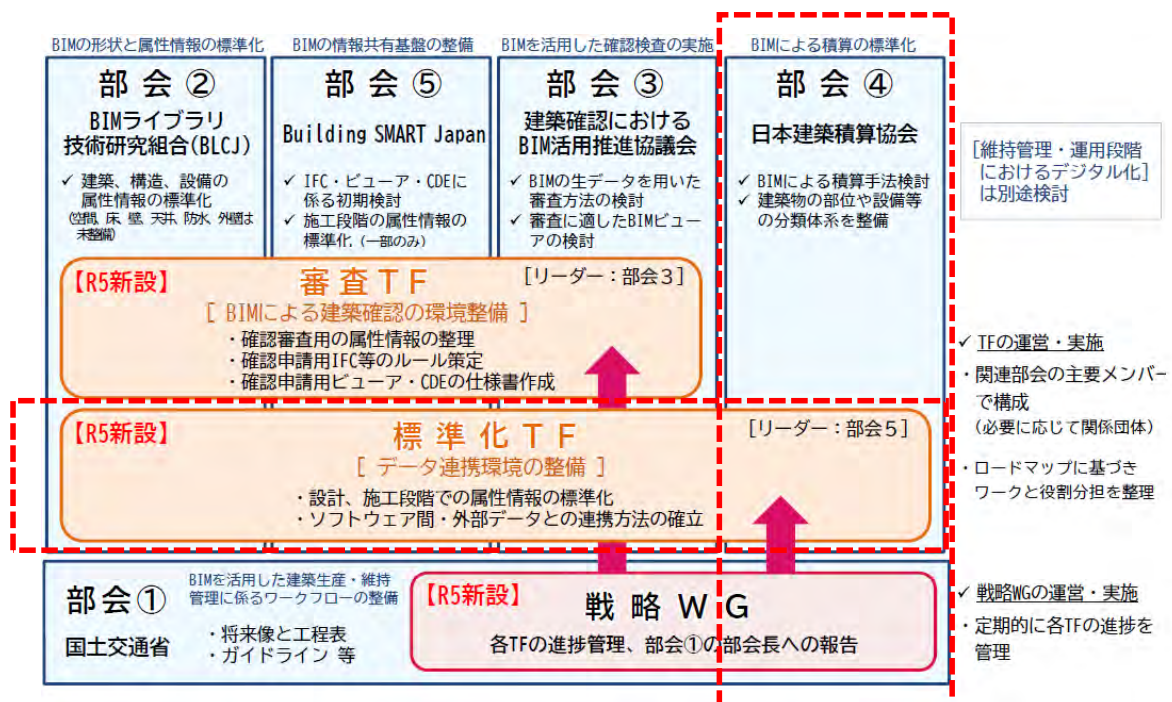
- ・ BSIJ情報委員会とBSIJ協議会（部会4）の関係は下図の通り
- ・ 分類検討WGは4つの専門チームに分かれて調査研究を実施し、適時ベテランのコストエンジニアで構成されるサポートWGにアドバイスを求め、これらの成果をBSIJ協議会活動として建築BIM推進会議と共有することが目的



3

BSIJ協議会（部会4）の活動体制

- ・ 今年度（令和5年度）から、部会1「標準化TF」への参加と情報提供を開始



4

2023年度の活動計画

部会 4	2023年度（R5年度）
実施内容（概要）	- 分類体系の意義と活用方法についての普及活動（全体） - Uniclassの日本語訳とその普及活動（翻訳チーム） - BIMによる設備積算モデル作成の検討（設備チーム） - BIMコストマネジメントガイドラインの作成（LOCチーム主体 全体）
実施内容（詳細）	- 他部会等と連携し、建築、土木、インフラ分野への展開も見据えた分類体系の共通認識を促進する。 - 従来の概算（コストマネジメント）手法の整理した上で、BIMソフトを用いたコストマネジメントの事例提案を行う。 - 継続的なUniclass日本語版のメンテナンスと公開を行う。 - 分類体系を使用したデータ利用のあり方について整理する。
成果・目標	- 部会 4 活動内容の共有 - 分類体系Uniclassの普及促進 - 分類体系を用いたコストマネジメントガイドラインの作成と公開（予定）

重点活動内容	作業スケジュール	状況(2023年12月現在)
Uniclass検索システムの公開と更新	2022年6月に公開済	BSIJ予算にて随時更新中
BIMコストマネジメントガイドラインの公開	2023年3月に公開予定	ガイドブックとして作成中

5

これまでの活動内容(翻訳チーム)

2018年度

- 分類体系の調査、検討

2019年度

- Systemsテーブルを中心とした翻訳

2020年度

- 全てのテーブルを翻訳
- 英国で活動している積算の専門家によるチェック
- Uniclass2015 日本語訳の公開(2020.11.19～)
- パブリックコメントによる実務者のチェック
- 専門団体との意見交換を実施

2021年度以降以降

- 最新アップデート対応
- 整合調整
- パブリックコメント追加分の反映

コストがわかれば、業務が変える！
BSIJ 公益社団法人日本建築積算協会
The Building Surveyor's Institute of Japan (BSIJ)

◎ サイトマップ ◎ 入会案内

> HOME > BSIJ協議会

BSIJ協議会
bsij Conference

(公社)日本建築積算協会・情報委員会
「BIMを活用した積算・コストマネジメントの環境整備」協議会
(略称: BSIJ協議会)

国土交通省の「建築BIM推進会議」の第4部会として活動

参考: 建築BIM推進会議(資料掲載ページ)

- 分類体系 Uniclass2015 日本語訳の公開について(2021.04.05)

(公社)日本建築積算協会情報委員会では、BIM(Building Information Modeling)データが将来的に建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、2017年から建設分類体系に関する調査を実施してまいりました。

BIMデータと分類体系が適切に結びつくことにより、建設業界全体でデータを効率的に活用することが期待できます。

この建設分類体系を検討するに際し、国際標準であるISO12006-2:2015に準拠し、かつ建設プロジェクトにおける様々な要素やデータを複数の視点から同時に定義できる、ファセット型の建設分類体系「Uniclass2015」を採用することにいたしました。

併せて、私たちは今後日本での利用拡大を目的として、この「Uniclass2015」の日本語訳を行っており、今回2020年度の「パブリックコメントおよび 第三者チェックの内容等を反映した Uniclass2015JP_V4.0」とりまとめました。今後の普及や更新にも柔軟に対応できるように、テーブル間の整合性を重視し、よりわかりやすい用語や表現方法としております。

今後は、Uniclass2015の継続的な追加更新にも対応していきながら、建設製品・資材に関する項目や土木分野のより専門的かつ技術的な内容については、日本の産官学や製品等に即した内容に改良を重ねていく必要があります。引き続き皆さまからのご意見をお待ちしております。

Uniclass翻訳データv4.42はこちらよりダウンロードをお願いします。
UniclassJP_V4.42.xlsx (2023.10.01)

ご意見やコメントにつきましては、下記メールアドレスにお送りいただければ幸いです。送付先メールアドレス: hp@bsij.or.jp

- 第7回会合(2022.11.24)

議事録
資料

6

Uniclass日本語版 の定期更新(年4回)

NBS

情報委員会、WG

▼1月分・4月分アップデート

JPユーザー

▼7月分アップデート

投稿機能、
パブリック
コメント
の反映
(10件/月程度)

新規項目、
JPユーザーコメント
反映、統合
公開準備

▼10月分アップデート

▼1月分アップデート

① 新バージョンV4.42エクセル作成
(各テーブル1シート統合)
② アップデート意識、投稿コメント反映

NBS ダウンロードサイト
<https://uniclass.thenbs.com/download>

[illegible][illegible]

7

Web検索システム(2022年6月～)

Uniclass日本語版

検索

uniclass (日本語版) Web検索システム Ver.4.42

Uniclass日本語訳 エクセルダウンロードはこちら

カテゴリー: Ss: Systems FI, PM, Ro, Zzは準備中

	Code	Title
	Ss_25_11_70_83	Stabilized rammed earth plinth systems
	Ss_25_11_70_85	Stabilized rammed earth wall systems
	Ss_25_11_90	Timber wall systems
	Ss_25_11_90_15	Cross-laminated timber wall systems
	Ss_25_11_90_96	Wood log wall systems
	Ss_25_12	Panel wall structure systems
	Ss_25_12_10	Brick panel wall systems
New	Ss_25_12_10_14	Clay brick panel wall systems
New	Ss_25_12_10_16	Concrete brick panel wall systems
	Ss_25_12_15	Concrete panel wall systems
	Ss_25_12_15_05	Autoclaved aerated concrete (AAC) panel wall systems
	Ss_25_12_15_15	Composite concrete panel wall systems
	Ss_25_12_60	Panel enclosure systems
	Ss_25_12_60_30	Fully-framed panel cubicle systems
	Ss_25_12_60_60	Panel cubicle systems

[illegible]

ウッドログウォール（丸太組構法）システム

ID: 20_85_47_04

Title: Acoustic baby cradle

日本語訳: 吸音バテシクレドル

ここにコメントをご記入ください。

コメントを投稿できます ←

※ 両方向のコメントが可能な場合は、コメントにメールアドレスなどの連絡先を併記してください。
 コメント内容は検索エンジンから閲覧可能ですが、必要な場合は常にコメントに個人情報を追加するのは避けてください。

コメントを投稿できます

2,477 件中 301 から 315 まで表示 (全 15,881 件より抽出)

前 1 ... 20 21 22 ... 166 次

2023年度の活動内容(LOCチーム)-ガイドブックについて

■ガイドブックの構成(2023年12月案)

	目 次	概 要
1章	分類とは	「分類」についての解説
	分類体系の例	Uniclass, Omniclassなど
	分類体系の必要性	分類体系の活用事例
	TVDに基づく調達手法	今後の設計業界の前提 (TVD: ターゲット・バリュー・デザイン)
2章	TVDの実現に向けたコスマネ	TVDを実現させる為の①②③④ (=コストに対応した分類)
	部分別概算について	①構成の統一
	従来の概算算出手法	②従来の概算算出手法
	BIM時代のコストマネジメント	③BIM時代のコストマネジメント
	Uniclassを用いた場合	④分類体系の例Uniclassをコスマネに用いた場合
3章	概算事例	BIMコスマネ事例
	精度について	精度
	ユースケース	未定

■ガイドブックの基本コンセプト

分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備される
ことを見据え、建設業界全体でデータを効率的に利活用できるようにする。

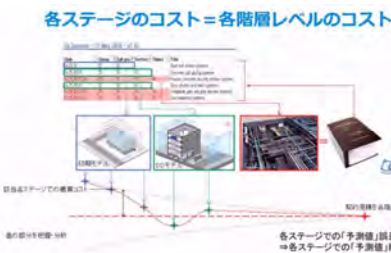
- ・分かりやすく：分類体系(Uniclass)、BIM概算、LOC
- ・実用的な物を：BIMを用いたコストマネジメント手法

9

2023年度の活動内容(設備チーム)

ガイド構成 コンテンツ作成

- ・ 設備としてBIM時代の積算で表したいこと →
- ・ 使う人がぜひ活用してほしい手法を提示する

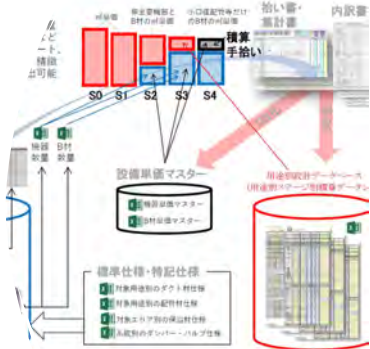


設備機器分類できることは
LCA環境評価の原単位である



Uniclass2015 設備構成主材材
マッピングの自動化で データベースとつなげる

BIMモデルデータからテーブル出力する



BIMから拾うもの
原単位で算出するもの



生成AI自動モデル作成

10

建築BIM推進会議の報告

第16回建築BIM環境整備部会(令和5年12月6日開催)より

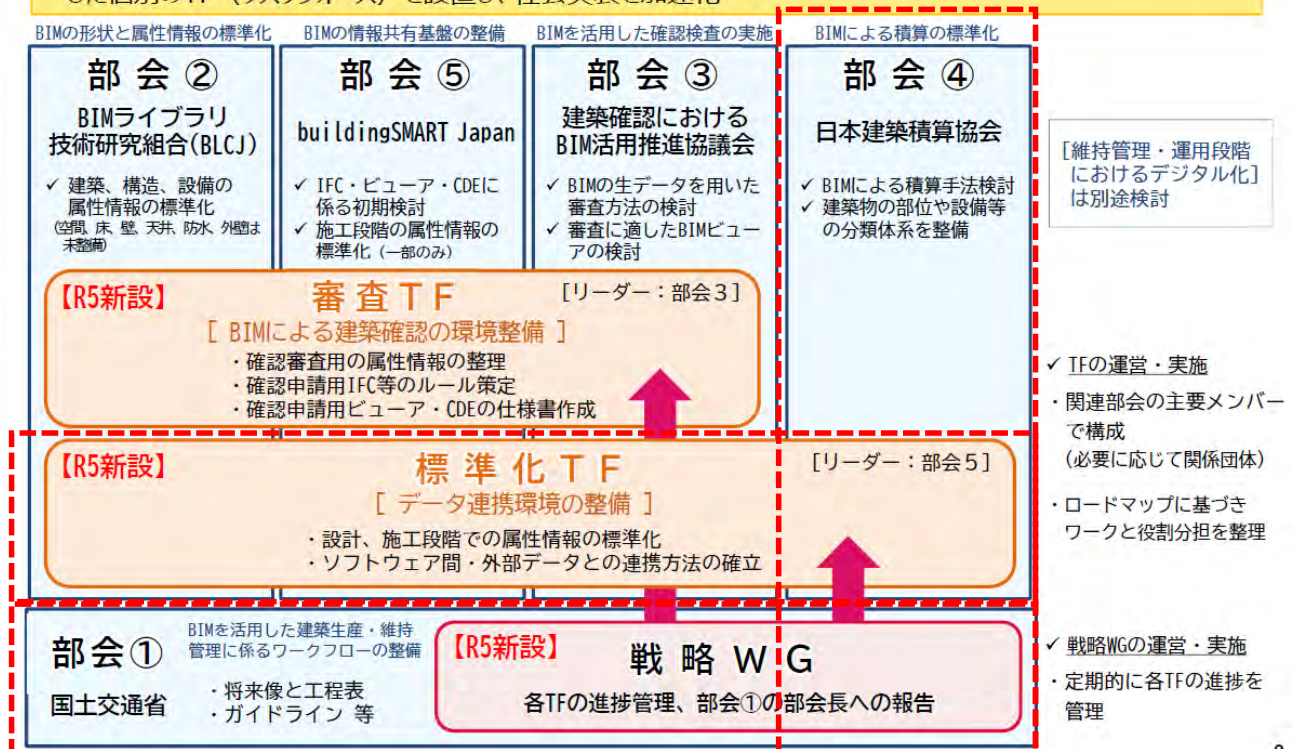
11

(参考) 建築BIMの将来像と工程表 検討体制について

第14回建築BIM環境整備部会資料
再掲

国土交通省

○部会を横断する課題・データの利用拡大に資する重要課題について、連携すべきインプットとアウトプットを明確にした個別のTF(タスクフォース)を設置し、社会実装を加速化



- **戦略WGの立上げ**（令和5年6月28日）
 - ・ 戦略WGからTFの立上げに当たり基本方針を提示 → TFから作業方針の報告

- **TFの立上げ**（審査TF：令和5年8月23日、標準化TF：令和5年8月22日）
 - ・ 検討体制、検討内容、成果、詳細工程表 等の共有

- **第2回戦略WG**（令和5年9月21日）
 - ・ TFにおける取組の報告、今後の進め方について（今後のスケジュール、戦略WGとしての進捗管理は中間成果を確認することにより行うことを提示）

- **第15回建築BIM環境整備部会**（令和5年10月2日）

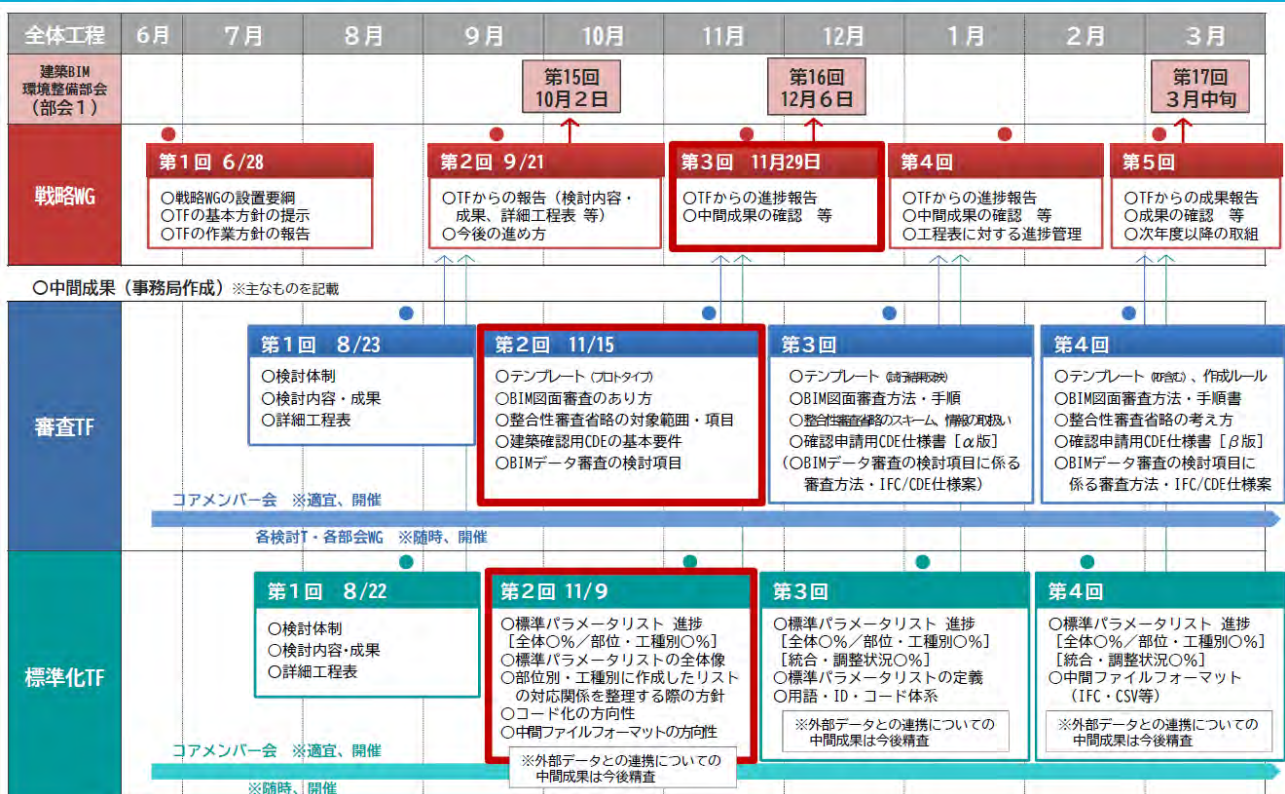
- **TFの開催**（第2回審査TF：令和5年11月15日、第2回標準化TF：令和5年11月9日）
 - ・ 進捗の共有

- **第3回戦略WG**（令和5年11月29日）
 - ・ TFの進捗の報告、進捗確認（中間成果の確認）

- **第16回建築BIM環境整備部会**（令和5年12月6日）

出典：国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/putakuentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html> 13

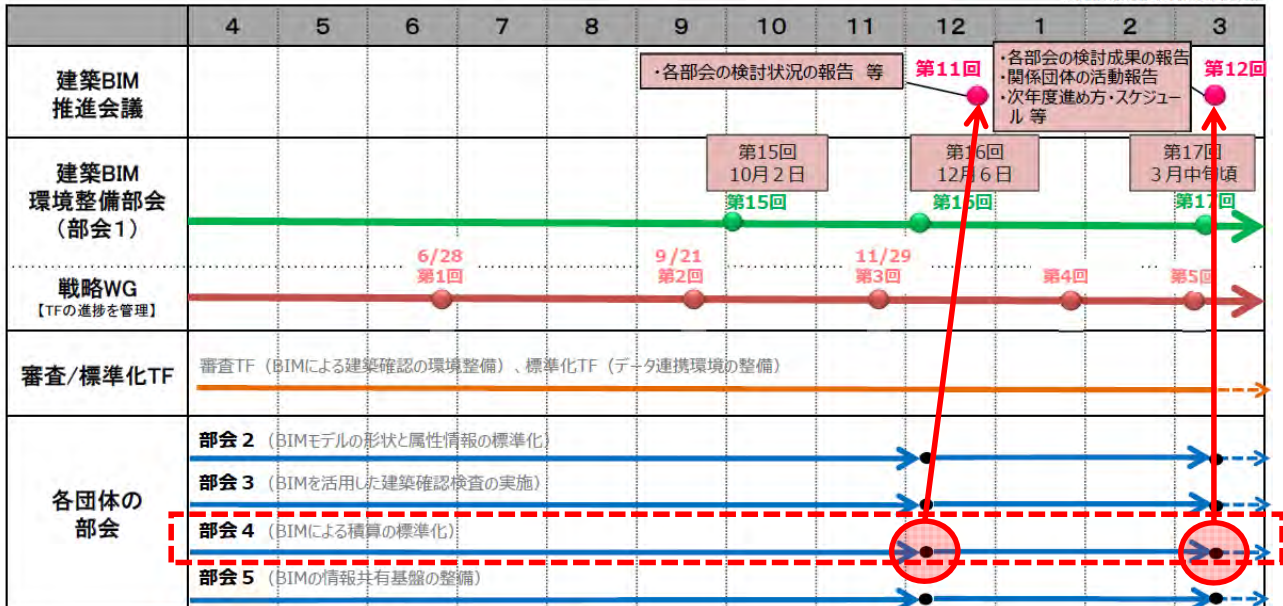
各TFの取組に関する進捗確認



出典：国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/putakuentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html> 14

- 令和5年度建築BIM推進会議は年2回の開催を予定。(建築BIM環境整備部会は年3回の開催を予定。)
- 部会横断のTF及び戦略WGにおいて、令和5年3月に定めた「建築BIMの将来像と工程表(増補版)」に基づく、BIMの社会実装に向けた環境整備を着実に進める。
- 各部会においても、令和元年9月に定めた「建築BIMの将来像と工程表」に基づき、引き続き必要な検討を進める。

※開催時期等の詳細は今後調整



出典: 国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html> 15

建築BIM加速化事業 概要

第16回建築BIM環境整備部会
資料 5 - 2

令和4年度補正予算: 80億円
令和5年度当初予算: -
令和5年度補正予算: 60億円

中小事業者が建築BIMを活用する建築プロジェクトについて、建築BIMモデル作成費を上限として支援することにより、建築BIMの社会実装の更なる加速化を図る。

● 事業内容

建築BIMを活用し、一定の要件を満たす建築物を整備するプロジェクト(既存建築物に係るものを含む。)における、設計費及び建設工事費について補助する事業

● 補助対象事業者

民間事業者等(設計者又は施工者)

● 補助額

定額

※設計費は設計BIMモデル作成費、
建設工事費は施工BIMモデル作成費を上限とする
※延床面積に応じて次の額を上限とする

延床面積	設計費	建設工事費
10,000㎡未満	25,000千円	40,000千円
10,000㎡以上、 30,000㎡未満	30,000千円	50,000千円
30,000㎡以上	35,000千円	55,000千円

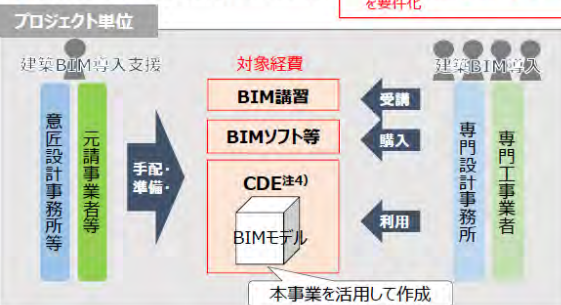
● 補助要件

- 元請事業者等が、下請事業者等による建築BIMの導入を支援すること
- 本事業により建築BIMを活用する全事業者が「建築BIM活用事業者宣言」を行うこと(元請事業者等においては、本事業の活用により整備する建築物について、維持管理の効率化に資するBIMデータ等を整備することを含む。)
- 大規模な新築プロジェクトにあっては、BIMモデルの活用により業務の効率化又は高度化に資するものとして国土交通省が定める利用方法を用いるものであること
- 次の要件に該当する建築物であること。

- ▶耐火/準耐火建築物等
- ▶省エネ基準適合
- ▶公共的通路等の整備
- ▶原則として土砂災害特別警戒区域外

【R5補正: 補助要件の見直し】

- ①小規模なプロジェクトにも対象を拡充(階数要件、面積要件を廃止)
- ②改修プロジェクトにも対象を拡充
- ③大規模の新築プロジェクトについては、業務の効率化又は高度化に資するBIMの活用を行うことを要件化



注1) 維持管理の効率化に資するBIMデータの例: 維持管理ソフトや不動産管理ソフト等にデータを受け渡し又は連携することを想定したIFCデータ(注2)

PLATEAU上におけるLOD4(建物内で歩行空間が認識できるレベル)のオブジェクトの整備に資するIFCデータ 等

注2) IFC: BIMデータの間ファイルフォーマットの一つ

注3) 次のすべての条件を満たすこと: 地区面積1,000㎡以上、延床面積1,000㎡以上、地階を除く階数が3以上

注4) CDE: 元請事業者等及び下請事業者等が、設計・施工情報を共有し受け渡すための手続きや環境をいう

出典: 国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>

16

BSIJ協議会 2023年度末に向けての活動

BIMコストマネジメントガイドブック(仮称)の制作

17

2023年度の活動内容(LOCチーム)-ガイドブックについて

■ガイドブックの構成(2023年12月案)

	目 次	概 要
1 章	分類とは	「分類」についての解説
	分類体系の例	Uniclass,Omniclassなど
	分類体系の必要性	分類体系の活用事例
	TVDに基づく調達手法	今後の設計業界の前提 (TVD:ターゲット・バリュー・デザイン)
2 章	TVDの実現に向けたコスマネ	TVDを実現させる為の①②③④ (=コストに対応した分類)
	部分別概算について	①構成の統一
	従来の概算算出手法	②従来の概算算出手法
	BIM時代のコストマネジメント	③BIM時代のコストマネジメント
	Uniclassを用いた場合	④分類体系の例Uniclassをコスマネに用いた場合
	概算事例	BIMコスマネ事例
3 章	精度について	精度
	ユースケース	未定

■ガイドブックの基本コンセプト

分類体系によって整理されたBIMデータが、建設業界全体の社会インフラとして整備されることを見据え、建設業界全体でデータを効率的に利活用できるようにする。

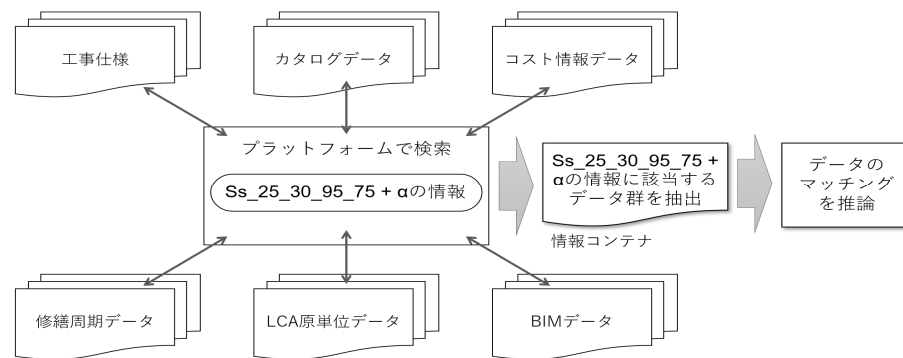
- ・分かりやすく : 分類体系(Uniclass)、BIM概算、LOC
- ・実用的な物を : BIMを用いたコストマネジメント手法

18

BIMコストマネジメントガイドブック(案)の内容“例”

・ 建設情報を分類する意味と階層化の意義

- 建設プロジェクトのパフォーマンスを国際比較するために開発された建設コスト分類システム「国際建築コスト管理基準 (International Cost Management Standard: ICMS)」
- ICMSの第1階層であるプロジェクトタイプは国際標準産業分類 (ISIC) との互換性が確保され、第2階層のカテゴリでコストが分類されている。第3階層のグループには、建物の部分の大分類 (地下躯体、上部躯体など) が含まれており、それらを細分する第4階層のサブグループは ISO12006-2:2015 (建物の建設—建設工事に関する情報の整理—パート 2: 分類のフレームワーク) に準拠した任意の分類体系。このサブグループ以下の分類が、本ガイドブックの対象。
- 分散しているデータをつなげて再利用することが、建設産業デジタル化の根本にある概念。それを実現するために不可欠な分類の体系は、階層化した構造で建設に関わる情報を記号や番号で分類し、様々な視点による分類を体系化したものが、分類体系 (Classification System)。その国際規格が ISO12006-2:2015 で、代表的なものに米国の OmniClass と英国の Uniclass がある。

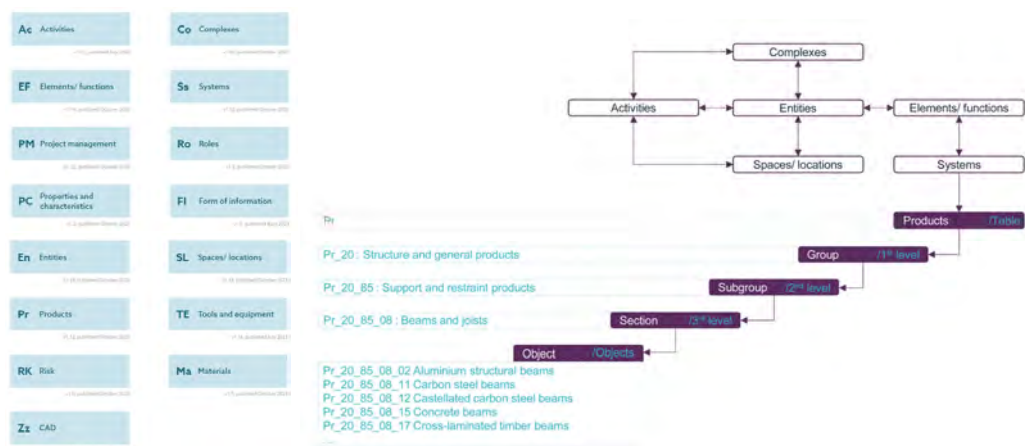


19

BIMコストマネジメントガイドブック(案)の内容“例”

・ Uniclassの概念

- 建築物における「窓」は、窓枠、ガラス、シーリングなどのコンポーネントで構成され、これらのコンポーネントは、それぞれ「窓枠」「ガラス」「シーリング」という製品で構成されている。しかし、工事の分類には、「窓コンポーネントの工事」という分類はない。窓枠は「建具工事」、ガラスは「ガラス工事」、シーリングは「防水工事」の中に分散している。
- これを解消するのが、「システム」という概念。システムは、コンポーネントの分類であると同時に、製品の集合という位置づけである。具体的には、窓コンポーネントを1つのシステムとして捉えれば、その工事は「窓システムの工事」という分類になる。これにより、窓コンポーネントの工事が、建具工事、ガラス工事、防水工事などの複数の分類に分散するという問題を解消できる。

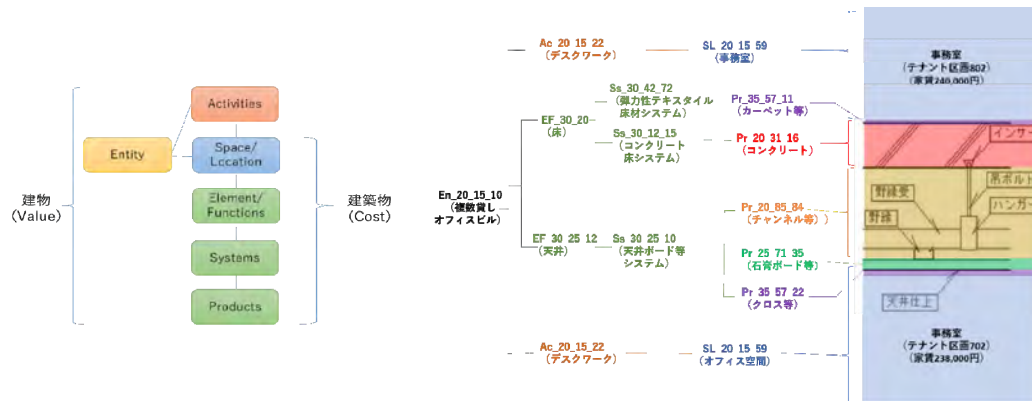


20

BIMコストマネジメントガイドブック(案)の内容“例”

・ 分類体系の必要性

- ・ 建築物と建物は、法律上はほぼ同義であるが、不動産の視点から見ると、建物は資産としての価値を持つのにに対し、建築物は単なる物体であるという違いがある。
- ・ 建物が資産としての価値を持つ理由は、その建物を利用することによって、人々に効用が与えられ、その効用に価値が認められ、その対価としてのキャッシュ獲得能力があるためである。
- ・ 建築物は、その活動内容(用途)を支える器として、種々の部位部材・設備を組み合わせて設計された空間の集合体である。不動産事業者(建物所有者)としての視点からは、価値実現のために必要な初期投資対象、あるいは追加投資対象であり、キャッシュ獲得のための費用。
- ・ 建物を資産(不動産)としてみる場合、建物は、建築物(種々の部位部材・設備を組み合わせて設計された空間の集合体)に加え、その建物が利用される活動の部分を含めた概念である。



21

BIMコストマネジメントガイドブック(案)の内容“例”

・ BIMオブジェクトと工種分類の関係

- ・ BIMデータはBIMオブジェクトの集まりで建物を表現する。BIMオブジェクトは特定の機能を持ったコンポーネントでありシステムである。
- ・ コンポーネントあるいはシステムは、部品や製品で構成されている。つまり、BIMデータは、コンポーネントあるいはシステム、部品や製品の順に分解することができる。このとき、部品や製品のリストを「BOM (Bill of material)」と言う。部品や製品のリストであるBOMを作成したり、それを工種別に再集計するのに、分類体系は便利なツールである。



22

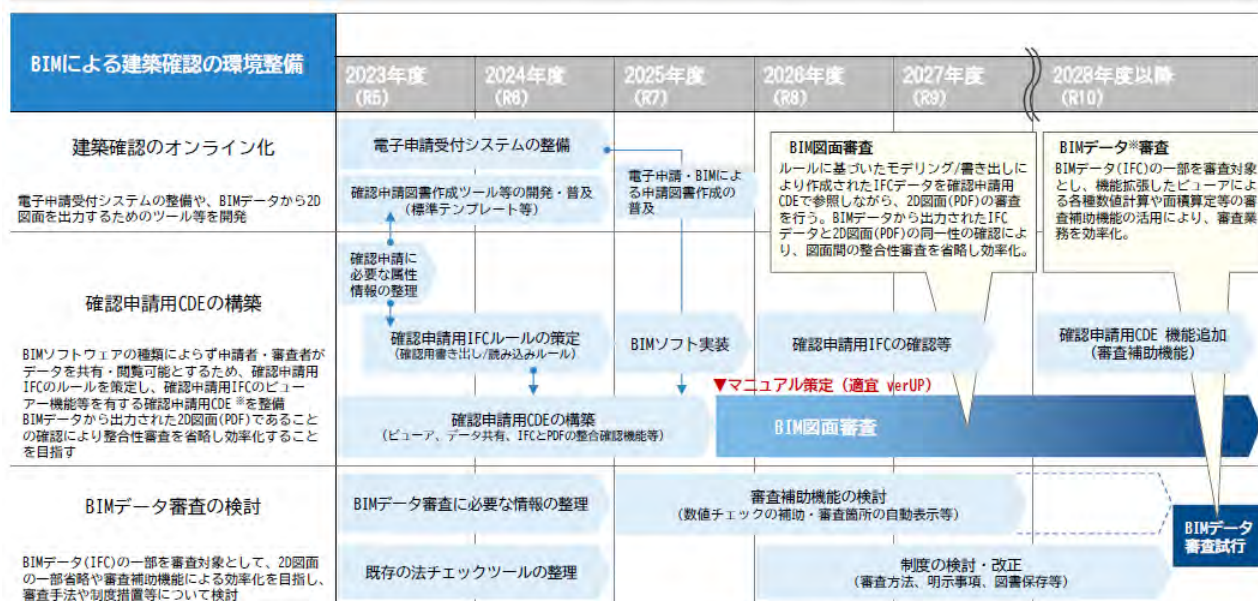
社会課題への対応と目指す将来像



出典：国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html> 23

ロードマップ1：BIMによる建築確認の環境整備

新築する建築物のほぼ全てが経る確認申請をBIMデータを用いて行うことができるようにすることで、申請・審査の効率化を図るとともに、共通化されたBIMデータやその伝達手法を社会に共有し、BIMの可能性を更に広げる。



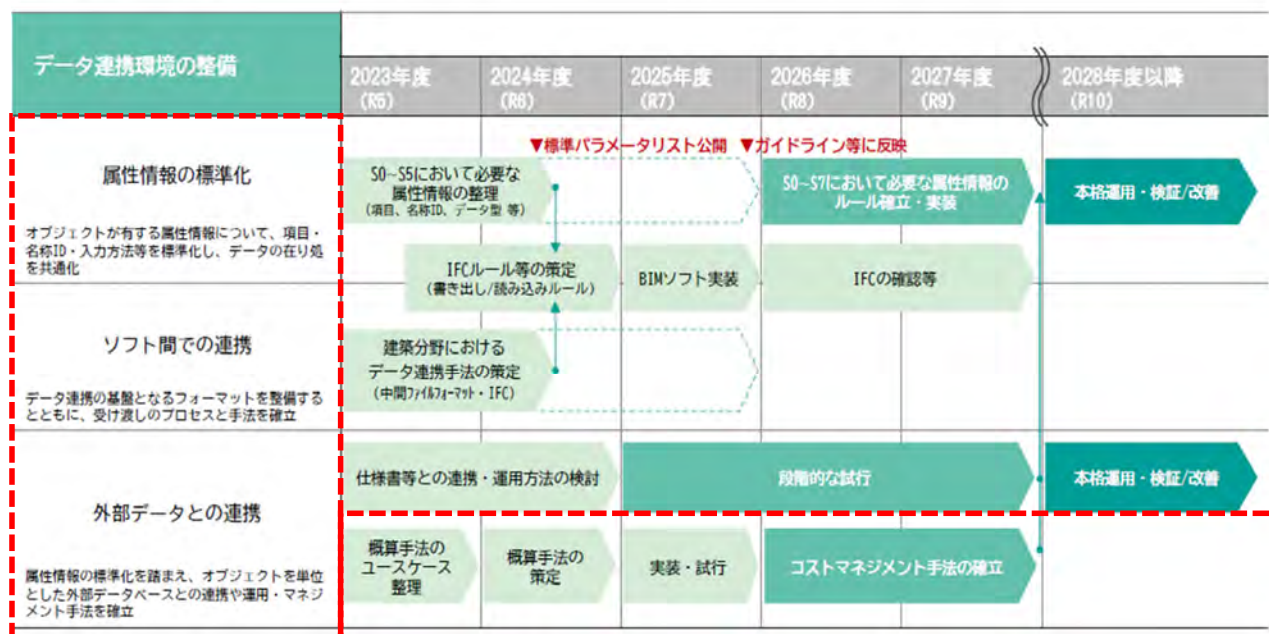
※CDE(Common Data Environment)：共通データ環境

※BIMデータ：BIM モデルに加え、BIM 上での2D による加筆も含めた全体の情報をいう。

出典：国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html> 24

ロードマップ2. データ連携環境の整備

データ入力ルール等の整備（データの標準化）とデータの受け渡しルール等の共通化を進めることで、設計・施工・維持管理等プレイヤー間でのBIMデータの横断的活用を進め、建築分野における生産性向上を実現する。

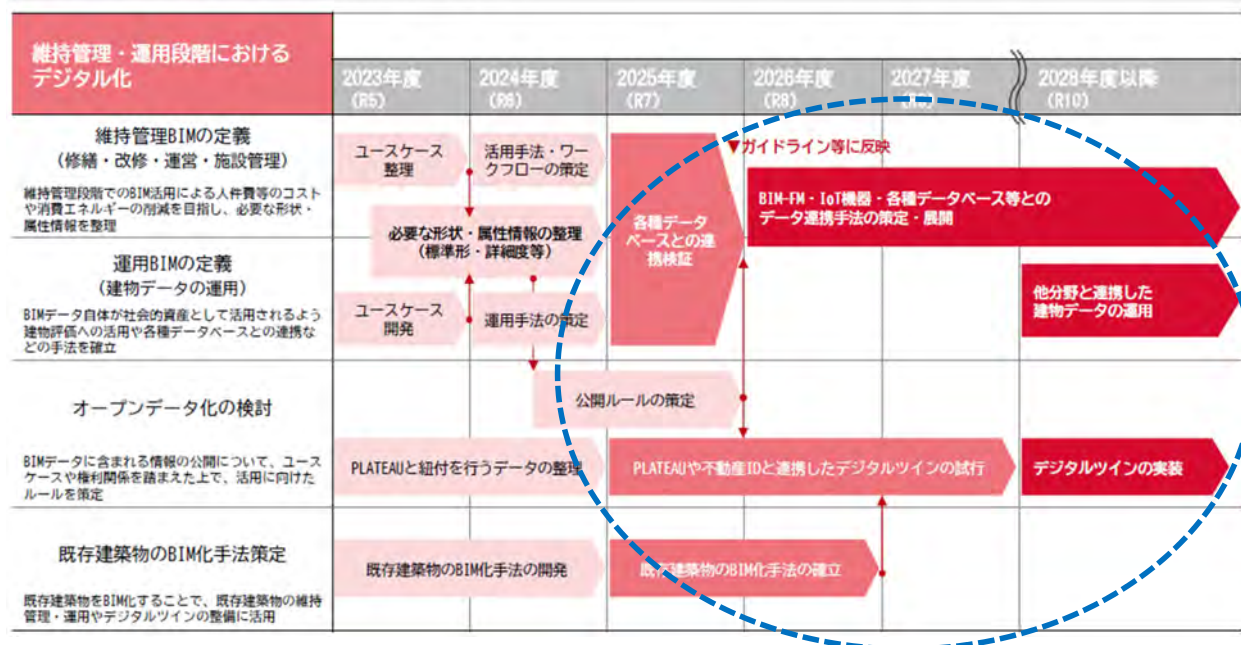


出典：国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>

25

ロードマップ3. 維持管理・運用段階におけるデジタル化

維持管理・運用手法のデジタル化の中で、BIMデータを活用することにより、新築・既存建築物の維持管理業務の効率化や、デジタルツインの実現による他分野（不動産・物流・エネルギー等）と連携した建物データの運用を可能とする。



出典：国土交通省建築BIM推進会議Webサイト <https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/kenchikuBIMsuishinkaigi.html>

26

BSIJ協議会(部会4)のこれまでの活動と今年度の作業

部会 4	2020年度 (R2年度)	2021年度 (R3年度)	2022年度 (R4年度)	2023年度 (R5年度)
各年度の 実施内容 (概要)	国外における分類体系の翻訳と 内容の整理、国内分類体系の素 案策定とモデル事業への適用	他の部会と連携し、モデル事業に 適用した結果を踏まえた実践的 な分類体系の策定を行う	国交省や他の部会、関連団体 等と連携し、活動成果を市井に 普及させるための活動を行う	仕様書作成ソフトウェアやそれに 代替する分類体系入力支援ソフ トウェアなどの検討を行う
実施内容 (詳細)	分類体系の翻訳と内容の整理を 行い、業務と照らし合わせた上での 問題点等を整理した Uniclass2015と概念的な分類との 関係を取りまとめ、モデル事業 (過去の実案件) に適用し、課題 の抽出と体系の見直しを行った	国際的協調のための建築分類 コード体系の翻訳と改訂更新対 応建築分類コード体系の対応表 作成とコスト概算法の整理 設備分野における既存の分類体 系の事例収集と建築分類コード 体系を用いたコスト概算法の 整理 分類体系を利用した概算法の 活用資料の試作	国際標準に則ったBIMモデルの 確定と普及啓蒙活動の展開 より具体的なLOCやコストマネジ メントにおける数量拾い、値入の 考え方についての整理 Uniclassの各テーブルに紐づく構 成群を合成単価として整備し、 概算業務に役立てるためのパ ターン例示等の作成	BIMオブジェクトとDOI、GUIDと の紐付けや、IFCやCDEなどデー タ環境との相互リンク思想、CI- NET分類、修繕計画用BELCA 分類やIDEAライフサイクルアセ メント分類など社会基礎情報とし ての活用を検討する
成果・目標 (2020・2021は実績、 2022以降は目標)	Uniclass2015をベースとした分 類体系標準案の策定を行い、モ デル事業を設定して分類体系の 調査と検討を行った 日本でUniclass2015を活用す るための助言や支援を目的とした 協定を、英国NBSと積算協会で 締結し、分類体系利用方法の提 案を行った 分類体系 Uniclass2015 日本 語訳を公開し、パブリックコメントを 実施 (R2年12月～R3年1 月) して、部会4の活動内容周 知を図るとともに、 Uniclass2015日本語版の翻訳 精度向上を行った	S2 および S3 段階において、国 際的な分類体系を日本の既存の 分類体系に対応した形で活用し、 BIMデータを用いた建築コストの 概算法を確立するための分類 体系の対応表を作成し、コスト概 算法の技術的仕様の検討を行 った。 併せて、設備分野の専門的知識 を持つ者が、建築物のBIMデー タ等を活用することにより設備分 野のコスト概算が把握できる手法 を確立するための事例を収集・整 理し、建築分類コード体系を利用 したコスト概算法の整理を行った。	他部会と連携し、建築のみならず 土木やインフラ分野への展開も見 据えた物理的分類の共通認識 を図るとともに、Uniclass2015 の日本語訳を含めたその内容の 精度を継続的に高めていく。	分類体系によって整理された BIMデータが、建設業界全体の 社会インフラとして整備されるこ とを見据え、建設業界全体でデー タを効率的に利活用できるよう、 部会4で抽出された課題等を業 界内の関係機関と共有しながら、 より実践的な検証を重ねて、 BIMの普及につなげていく。
				「(仮称)BIMコストマネジ メントガイドブック」の公開